宣東教北 PROJECT

ニュースレターNo.3

News Letter

発行2016年6月

祈る pray

1.齋藤満師一家のために

・満師の霊的な祝福と家族の健康が守られるように
・家族の健康、真理枝夫人の働き、長女唯名(ゆいな)さんの幼稚園生活、次女希月(きづき)さんの成長のため
・大船渡における生活、地域の人々との良き関係が築かれるように
・支援拠点「グレイス・ハウス」の管理のために

2.働きのために（主に大船渡市と陸前高田市で活動中）

・毎週行われている健康体操「ふまねっと」によって人々の心身の健康が支えられるように
・仮設から災害公営住宅への移行が進む中で、真に必要な活動ができるように
・福音に心が開かれている人との出会いがあるように
・今年度中に、宣教の拠点（教会開拓地）が導かれるように

3.支援体制のため

・宣教チーム参加者が与えられ、種まきと収穫に用いられるように
・経済的な必要が満たされるように（下記グラフを参照）
・現地責任者大塚史明牧師（盛岡みなみ教会）と齋藤師との祈りとミーティングの祝福のために

送る send

おやつ支援に多くのご協力いただきありがとうございます。お送りくださったおやつは、現地の人々に届けられ「これは珍しい」「手作りはおいしいね」「そんな遠いところから」と好評です。ただ、仮設住まいの方の人数も減りつつありますので、お送りくださる前に、必要の有無をお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

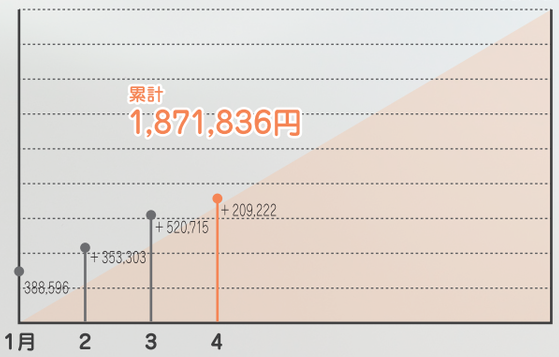
参加する participate

現在、もっともニーズの高いのが「宣教チーム」においでくださることです。すでに5、6月にもお一人から教会単位でご参加くださっています。「まだ被災地に行ったことがないけれど」「私に何ができるのかしら」といった心配はご無用です。滞在日数の設定は自由、支援拠点グレイス・ハウスには寝具等も揃っております。ぜひプロジェクトの現場へおいでください。現地において活動や時間を共に過ごしてくださることと自体が福音の前進となります。お申し込みはウェブサイト、または、下記の大塚、齋藤への連絡先でも承ります。どしどしお越しください。

連絡先	大塚史明 mmch@ktd.biglobe.ne.jp ／ 019-636-4137	齋藤　満 norakichi44@hotmail.com ／ 090-2936-3110

献げる devote

プロジェクトの初年度である昨年度は予算450万円が満たされました。みなさまのお祈りとご支援を感謝いたします。今年度も同じく450万円の予算を立てております。以下は4月初旬時点での会計状況です。続けてのご支援をよろしくお願いします。



＊4月2日時点の期待値33%（約113万円）に対して41%（187万円）達成

郵便振替

郵便振替：00100-5-264712
加入者名：日本同盟基督教団 東北宣教プロジェクト

ゆうちょ口座 ゆうちょ間でのお振込

名前：東北宣教プロジェクト（トウホクセンキョウプロジェクト）
記号：18330　　番号：11698891

ゆうちょ以外から

店名：883　　店番：八三八（ハチサンハチ）
口座：1169889　　預金種目：普通
名前：東北宣教プロジェクト（トウホクセンキョウプロジェクト）

東北宣教プロジェクトとは?

被災地における支援と宣教の活動であり、お祈りし献げてくださるあなたの働きです。

被災地宣教の先端性を分かち合う

最近、妻が時々ケーキを作っています。東北宣教ニュースレター前号に載っていた「おやつ支援のお願い」に応答して、出張カフェ（お茶っこ）に送るらしいです。私は切り落とした2mmほどの両端のご相伴にあずかります。一瞬、聖餐式を連想します。第一コリント10章には「ケーキは一つですから」とは書かれていませんが、一つの食材を分かち合うことに何かしらのスピリチュアリティーを感じます。

東北宣教プロジェクトは、同盟教団の宣教の歩みを振り返ると、前例やモデルが無い、先端的な取り組みです。初めて遭遇した大震災への教団的・教会的対応として始まったからです。現地での日々は手探りと試行の連続でしょう。周囲からの協力・支援・相談は大切ですが、現地では余りそれに左右されずに、祈りとみ言葉に頼って神の国の働きに思う存分取り組んで頂きたいと思っています。

日本の社会全体が諸方面で痛んでいることを思うと、被災地の状況は日本全体の先端的位置にあります。東北宣教プロジェクトの経験は、今日本に広がる、環境的被災・家庭的被災・経済的被災・人権的被災・軍事的被災・等に、必ず何らかの知見を提供するものとなるでしょう。やがて私たちは、分かち合っていたものが、ケーキや献金だけではなく、現代と対峙しつつ広がる神の国の霊的現実であったことを知って、主と働き人に感謝するのだと思います。

東北宣教プロジェクト
日本同盟基督教団
理事長
廣瀬　薫

「暮らしは低く、想いは高く」がモットー。東京大学に在学中にキリスト教信仰を持つ。建設会社で8年間勤務した後神学校に入り、教会で19年間牧師として働く。現在は東京キリスト教学園理事長。2女1男の父。
趣味は囲碁（3段）、元一級建築士

発行：日本同盟基督教団　東北宣教プロジェクト委員会

今年度の個人で掲げるみことば（ゼカリヤ4:6）
「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」
東北宣教プロジェクト　現地リーダー：齋藤 満

桜も散り、新緑が萌える季節となりました。主にある兄弟姉妹の皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年度に続き、すでに多くの方が岩手県沿岸に足を運び、現地の方々に仕えてくださっています。その背後に多くの方の継続的な祈りと、献げものがあることを覚え、心より感謝申し上げます。また熊本の地震の被災者の方々、ならびに、現在奔走されている各方面の先生方、教会の兄弟姉妹の方々に主の守りと励ましがありますようお祈り申し上げます。現地に赴きたい思いに駆られつつ、引き続き岩手の被災地の復興と宣教の務めに鋭意努力したく願っております。ますますのご加祷、ご支援をお願いします。

数字から見る沿岸の実態

岩手県沿岸の近況をお伝えします。下の図は、公表された町の人口や仮設数の調査結果です。上段が最新、下段が前回調査のものです。なお、数値はみなし仮設、公営住宅、民間賃貸住宅での仮設生活者を除くものです。みなし仮設などを入れるとさらに数値は大きくなります。

2016.3.31現在（人口は2015年発表）				
	人口（人）	入居仮設（戸）	入居者数（人）	入居率
大船渡市	38,068	781 / 1,811	1,691	48.2%
陸前高田市	19,757	1,218 / 2,168	2,986	58.6%
岩手県沿岸部	251,325	7,423 / 13,984	15,661	57.1%

2015.6.30の結果（人口は2010年発表）				
	人口（人）	入居仮設（戸）	入居者数（人）	入居率
大船渡市	40,737	1,180/1,811	2,586	65.5%
陸前高田市	23,300	1,474/2,168	3,638	70.5%
岩手県沿岸部	274,086	9,160/13,984	19,805	57.1%

分析（前回調査と比較して）			
	人口（人）	入居仮設（戸）	入居者数（人）
大船渡市	-2,669/6.6%減	399戸減	-895減
陸前高田市	-3,543/15.2%減	256戸減	-652減
岩手県沿岸部	-22,761/8.3%減	1,737戸減	-4,144減

※人口は国勢調査を反映しており、2015年ものと2010年（震災前）が比較されている。
※出典：人口について　は、岩手県　政策地域部調査統計課「平成27年国政調査による人口・世帯数」（2015.12.28）、仮設に関して　は岩手県復興局生活　再建課の「応急仮設住宅供与及び入居状況」「応急仮設住宅、みなし仮設住宅の被災者　の状況」参照。
※入居仮設の右側の数字は、建設された仮設の数。みなし仮設等は含まず。
※仮設入居率は低いほうが好ましい。下がった分だけ家を再建出来た人が増えたことを示す。

いかがでしょうか。このように改めて比較してみると、震災から5年が経過した今も、まだまだ多くの方が自分の生活に戻れずにいることが分かると思います。また、震災は岩手県、特に沿岸部の人口減少に拍車をかけました。昨年度の国勢調査と前回調査との比較における人口減少数・減少率は、ともに戦後最大の下げ幅を記録しています。また沿岸の各市町村別に分析すると、市町村の被害と人口減少に相関関係があることがうかがえます。被害の大きさに比例して、大槌町3,544人（23.2%）、陸前高田市3,543人（15.2%）、山田町2,791人（15.0%）の減少となっています（朝日デジタル12月28日角津栄一、毎日新聞デジタル版12月28日春増翔太、参照）。現在、私は大船渡市、陸前高田市を中心に支援、宣教活動を行っており、被害の大きかった陸前高田市での支援を今後さらに続けていく必要を感じています。

仮設の近況と今後の展望

仮設はこの春再建した家に引っ越す方々によって慌ただしくなっています。大船渡市では、今年度の4－6月の間に新たに355件の引っ越しが見込まれています。また2018年末まで残る仮設団地の数は3ヶ所に絞られています。一方、陸前高田市ではまだまだ再建の見通しが立たない方も多くおられます。2018年末に残る仮設団地の数も26ヶ所とかなりの数に上ります。また季節の変わり目に亡くなられる方も多くなっています。先月も、主催する「ふまねっと運動」の参加者のお母様やご主人が亡くなり運動を中止することが続きました。また、これまで回ってきた仮設からもいくつか訃報が届いており、新居を見ることなく世を去られた方々の無念を思います。同時に、果たして十分に真の福音が届いたのかどうかも気がかりです。新たに「ふまねっと運動」によって定期的に訪問する仮設住宅、災害公営住宅を増やすとともに、これまでの訪問で築いた関係を一つずつ丁寧に暖めていくこと。また、病気や死を待つ方々に寄り添い、希望を与える働きが必要とされています。

支援と宣教のジレンマを越えて

一方支援と宣教の間のジレンマも当然感じるこの頃です。有限な資金、人材、時間を用いて日々出来ることはわずかです。イベントを何度しても一向に深まらない人間関係や、いつしか無償で利用できる人材、資源と見做されている事に気が付き、疲れを覚えることもあります。また支援をすればするほど人々の自立心を損ない、依存を引き起こす傾向や、地元の方々の様々な妬みの的になる危険性は万国共通です。さらには、支援活動で築いた関係は“宗教”を持ちだした瞬間に崩壊する危険性とも常に隣り合わせです。支援して距離を縮めれば縮めるほど、福音を提示した時の“宗教的下心”を疑われる可能性は高く、また相手の必要との食い違いも大きくなります。これらのジレンマは国際協力団体で働いていた頃から感じていた馴染み深いものばかりです。これらのジレンマにはどのように応じて行けば良いのでしょうか。今、与えられている答えは「主のからだである教会として、主の御姿に倣う」ということです。マルコの福音書6章7～13節で主イエスは十二弟子を遣わし村々で主の働きを行わせました。「こうして十二人が出て行き、悔い改めを説き広め、悪霊を多く追い出し、大ぜいの病人に油を塗っていやした。」（マルコ6:12-13）　ここには、神の国の働きの2つの側面が書かれています。1つは悔い改めを説く「福音宣教」の側面。もう1つは病人や、悪霊につかれた方のケアといった「社会への奉仕」の側面です。主は、この両面を同時に、分けることも混同することもなく行い、弟子たちにも行わせました。そして、この務めは、今の私たち＝キリストのからだなる教会に与えられています。これらのことを理解し、たゆまず、焦らず神の国の前進に尽くすことこそ、支援と宣教との間のジレンマを解決していく鍵であると御霊に依って教えられています。ぜひ、今後も岩手県沿岸に神の国が前進するためにお祈りとご支援、そして宣教チームの派遣をお願いします。主にありて

記：齋藤満